

掃水自主防犯パトロール隊（三重県）



三重県松阪市の櫛田地区からまいりました、掃水（テイスイ）自主防犯パトロール隊でございます。

本来ですと櫛田自主防犯パトロール隊と言うべきだと思うんですけども、あえて掃水というのは、私どもの地区の中に櫛田川という川が流れておりまして、この櫛田川の古い別の呼び方が掃水と言うんだそうです。

江戸時代ですね。掃水の「掃」は頭をとく櫛だそうなんです。「水」は水ですから川。従いまして掃水＝櫛田川と

いうことで、私どもはこの伝統ある名前を頂いて、掃水自主防犯パトロール隊といたしております。ちなみに小学校も櫛田小学校ではなく掃水小学校という名前になっております。



ていすい
掃水自主防犯パトロール隊

- 1 発足
平成18年5月1日
- 2 活動人員等
 - 隊員47名
 - 平均年齢69.1歳
 - 青パト車両1台(現在3代目)
- 3 活動目的
 - (1) 地域の防犯意識等の啓発と高揚
 - (2) 地域住民・子供の安全確保
 - (3) 地域全体の環境浄化

～ パトロールで安全・安心なまちに ～

それでは、私どもの活動状況を報告させていただきます。まず、実際に始まりましたのは、平成18年でございますので、ちょうど14年経ちました。非常に長いことやっております、隊員は47名、平均年齢が実は69.1歳と、御多分にもれず高齢化でございます。活動の目的といたしましては、地域の防犯意識等の啓発と高揚、そして、地域の住民の皆さん、なかんずく子供の安全の確保、それに、地域全体の環境の浄化、この3つで安全で安心なまちを作りましょう、ということで活動をいたしております。

～ 自分達のまちは自分達で守る ～

- 登下校時の防犯パトロール
(青パトによる見守り活動)
- 子供たちとのふれあい
(タウンウォッチング)
- 情報交換・連携強化
(警察、市町、学校・幼稚園等)

登下校時の防犯パトロール

★ パトロールの強化

パトロール隊

2017年度まで
1か月に10日程度

↓

2018年度から
1か月に20回程度

具体的に申しますと、「自分達のまちは自分達で守る」という合言葉のもとに、まずやはり子供の安全ということで、登下校時の防犯パトロールをとにかく最優先で行っております。子供たちとのふれあい、これもタウンウォッチングという行事がございます。それからもう1つが、情報交換・連携強化という、この3本立てで、私どもは活動をいたしております。

1つずつ御紹介申し上げますと、登下校時の防犯パトロールは、とにかくパトロールを強化しましょう、ということにいたしました。2017年までは1か月に10回程度やっておりましたが、2018年

度からは一気に倍にいたしまして、1か月に20回程度といたしました。これは訳がありまして、ちょうど2018年がこのパトロール事業を始めまして12年に当たります。ちょうどまい具合に、日本財団様から、素晴らしい、いわゆる安全パトロール車を私どもにいただきました。これを機会にパトロールを強化していこうじゃないかということで、パトロールのルート、時間とか、あるいは方法等も、以前の12年間のことを反省して、次の12年間を見据えたいうえで新しく決めまして、パトロールをこれから1か月に20回を目標にやりましょうということで、強化をいたしました。



それから子供たちとのふれあい、これは学校と連携した活動になります。特に登下校時の見守りとあいさつ活動を、まず始めております。これは、私どもが登下校時の通学路にパトロールカーを随時止めまして、子供に注意喚起をしたり、通行する車にも注意喚起したりしております。それから、登下校の通路上にあるお宅にも協力いただきまして、登下校の時間に合わせてち

よっと玄関の前に出ていただいて、「おはよう」あるいは「お帰り」と、積極的に声かけをしていただいております。それから子供たちに対する防犯とか交通安全等、これはその都度学校と打ち合わせをいたしまして、必要に応じて専門の方とか先生に来ていただいて、講話をいただいております。

子供たちのタウンウォッチング。これは御存じだと思いますけれども、子供たちと我々大人と一緒に町内を回りまして、危険な場所、あるいは不審な所はないかどうかを、まず子供たちの目で見えていく。それを子供たちで色々と議論をして、1つの地図に表して発表してもらうというものです。これを我々大人の方が見て、これに対して色々な対策や対応をして解決をしていくという一連の作業でございます。



これがタウンウォッチングの様子です。このように子供たちは一緒になって現地を見て、体育館でマップを作り発表します。そのため子どもたちが自分たちで、こういう所が本当に危ないんだなと、つくづく分かってくれます。だから我々の言うことをよく聞いてくれます。こういうことで頑張って子供たちと一緒にやっております。

それから最後に情報交換と連携。これはどちらかと言いますと、警察との連携した活動です。警察から防犯メールが届きます。これは、最新の事故とか色々な情報が入っています。我々はそれをいただいて参考にして、防犯パトロールのルートを決めまして、その都度メールの内容を活かしていくようにいたしております。

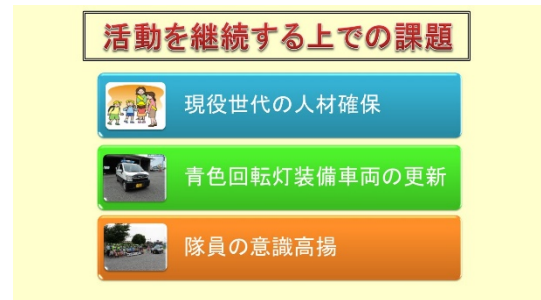
また偶数月には、駐在所員と我々隊員の代表が集まりまして、青パト会議なるものを行っております。これは、先ほども言いましたように、色々な情報の交換をして、それに対してどういう対応をしようかというのを警察も一緒にやってもらって、協議して、パトロール活動に活かしていこうと

やっております。これは何かありましたらすぐに集まれるというシステムでございます。

それから警察からは、防犯パトロールのやり方とか、あるいは注意事項というのを、我々に講習形式で教えていただきます。我々もより一層効果のある効率のいい、そして何よりも安全な防犯パトロール活動ができるようにいたしております。

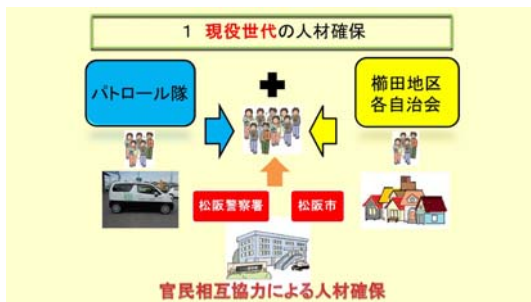
また、情報やその他、警察の色々な行事などにも参加しております。例えば、年末年始の特別警戒にも積極的に参加をいたしまして、私どもも勉強させていただいております。

今年度は、全国地域安全運動期間にあたりまして、10月12日に松阪警察署と一緒に、下校時間に合わせまして、町内を巡回いたしました。



これは年末年始の特別警戒の出発式の参加の様子です。こういう具合にたくさん集まってやっていただきました。

以上、主な3つの活動をやっておりますが、感じていることは、それぞれ継続することがやっぱり大事だと思います。そこで、継続するためには色々な課題が出てきます。私どもなりに3つにまとめてみました。

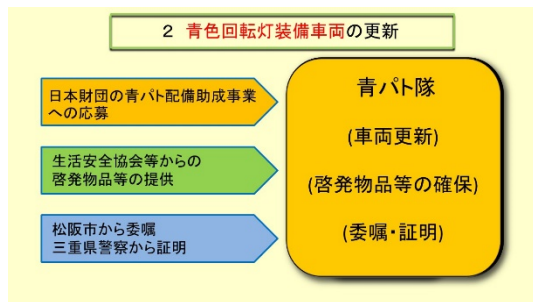


まず1つ、一番大事だと私が思っています、現役世代の人材確保。私どもは先ほど言いましたように、69.1歳という非常に高齢化が進んでおります。今後この活動を安定的に続けるためには、やはり現役世代、若い方に積極的に入っていただくということが絶対必要だということ、今考えております。ここにありますように、これは官民相互一体で人材を確保していかないと、我々だけではとてもじゃないけどできない、ということで考えております。

現役世代の方に参加してもらおうと思えば、活動の日にちや時間等も相当弾力的にして、活動に参加しやすい環境を、人材確保に向けて作っていかねばいけないだろうと考えています。

もう1つ、活動に対しては費用弁償制度を確立して、きちんと導入していかないといけないでしょう。

もう1つ、これが一番大事かもしれませんが、このボランティア活動に対して、地域の住民の皆さん、あるいは職場の方の理解と協力体制を取ってもらうことが必要だろうということで、特に警察や行政と一緒に、人材確保をはかっております。



この青色回転灯装備車両の更新というのは、大体事業には物と金と人が必要ですね。人は、先ほども言いましたように、そういう形で何とか確保していこうと考えています。青色回転灯、今回はちょうど日本財団様から援助いただきまして、素晴らしい青パト車を配備することができました。それから、松阪市の生活安全協会等から、色々な啓発物品等を提供していただいています。私どもの活動は、基本的に松阪市からの委託を受けまして、三重県警からも青色パトロール団体の承認をいただきましてやっているわけです。松阪市からも、それなりの予算をいただいております。従いまして、物と金は何とか今回は、確保できたんですけども、先のことまではまだ分かりませんから、これも1つの問題であろうと思っております。

これがさっきから言っております、日本財団様から助成いただいた青パト車です。一見パトカーと間違えるぐらいです。皆さんがドキッとするとされるぐらい立派なものです。その前の時代がこれです。その前の初代がまさにボランティアで自家用車でやっていたっていました。



そして3番目が、隊員の意識高揚です。これはやっぱり隊員が、その都度、意識、やる気をアップできるように我々も考えて、年に1回、6月の下旬ぐらいなんですけども、出発式という形で、このようにして行っております。これには隊員のやる気アップがもちろんですけども、こういうことをやることによりまして、皆さんと情報を共有できますし、地域の方に広報とか啓発が

できるということでやっております。今年度は残念ながら、コロナの関係でこういうことができませんでしたが、毎年やっております。

- 2020年度 活動計画
- 1 子供の見守り等防犯パトロールの実施
 - 2 関係機関・団体との連携・協働
 - 3 小学校で声掛け等不審者対応訓練の実施
 - 4 年末・年始特別警戒出発式へ参加
 - 5 情報発信(活動の紹介)



以上のようなことをやっておりますが、2020年度はどういう計画だったかということです。我々はやっぱり一番に子供の安全確保をしようということで、子供見守り等の実施、それから2番目としましては、関係機関、団体との色々な協働した活動、3番目は学校、特に小学校での色々な訓練の実施、4番目は警察等の行事への積極的な参加、それから5番目は情報発信、色々な活動を皆さんに紹介して発信する。こうした5つの活動計画を作っております。毎年、大体同じような計画なん

ですけれども、一つ一つ計画をして、実行して、それらを検証して、次のまた新しい計画に持っていくという、管理のサイクルという言葉がありますが、これを回すことによりまして、同じような計画だけれども、やはり1ランク毎年のように上げていく、その目標値をできるだけ数字で出していく。それがクリアされることによって、当初の目的であります、安全で安心なまちを作ろうというのが、我々の気持ちでございます。こういうことで頑張っております。どうも御静聴、ありがとうございました。

質疑応答

山本 掃水自主防犯パトロール隊様、御報告ありがとうございました。ポイントとしていくつかあるような気がいたしました。意外とさらっと言われたんですけども、小学生と一緒にマップ作りを行っている、これを小学生と一緒にパトロールと言わずに、タウンウォッチングというふうにおっしゃられている、このタウンウォッチングという言葉の選び方がとてもいいなと思いました。やっぱり町を見るという習慣を多くの地域の人たちが、そういう目を町に向けていくというのが、とても大事なことだと思っています。小学生自身がそんなふうに目を向けていけるということが大事なので、この言葉はいいですね。タウンウォッチングという活動はとてもいいと思います。その時の危険箇所というのは、色々な意味があると思うんです。交通事故もあれば、災害的なものもあれば、犯罪的なものもあると思います。これは少しずつ感性が違っていたり、集まっている部分もあるんですけど。この辺は何か意識して区別されていますか。それとも、大体交通事故も犯罪も防犯も一緒ですか。

発表者 子供と一緒に回っています。ただし子供の目というのは、1メートルちょっとですね。見ても危ない、危険だなということが違っていて、我々の方からすると参考になるんですね。だからやっぱり子供と見て、周囲を見て考えて。どこでもおやりになっていると思います。これは例えば先ほどから言われています公民館、教育委員会を1つ、実は看板制作です。これにも我々一緒になってやっているということで、学校と一緒にやりまして、これはいいことだなと私は思っています。それに対して我々が対策とか対応を考える。やはり関係各団体、警察はじめ行政、あるいは学校、PTAと一緒にやらないと、我々みたいな、ただのボランティア活動ではとてもできないということで、あらゆるところで皆さんとやっております。

山本 そのアプローチはとっても大事だと思います。例えば子供を見守るといった時も、見守る側と見守られる側で分かれるのではなくて、一緒に見守っていきましょう、一緒に点検していきましょうというふうに、子供たちと協働していく、学校と協働していく姿勢は、とても大事だと思います。そこを自然とおやりになっているというところが、なるほどと思いました。

もう1点は、現役世代の人材の確保。これも「官民一体となって」とさらっとおっしゃっているんですけど、もう少し教えていただけませんか。どうやって現役世代を確保されているのか。この一番のポイントはどこにありますか。

発表者 これは私も一番悩みなんです。我々だけではとてもではないけど「ボランティアでお願いします」なんて現役の方はとても。実際現役の方が、やりたくてもやれない環境なんですね。ですから、現役の方がこういうことをやることは非常にいいことだと思っていますが、やれるような環境を作るためにも、やっぱり官民一体、特に行政です。もう少し生臭い話を出しますと、費用弁償制度です。今全てボランティアなんです。先ほどの方も、ガソリン代も自分で出しているとおっしゃ

いました。これではやはり、特に現役の方、やっぱりできない方が多いと思います。ただ、全てボランティアでやるということがいいことなのかもしれませんが、ここまですると、やはりそれなりの費用弁償制度を作って、きちんとした手当てを出す。はっきり言わせて、この活動はほとんど警察の仕事です、これね。それを我々が一緒になってやらせていただいているということですので、やはり現役の方にもそれなりの意識を持ってもらうとともに、やっぱり参加できる環境を作らなきゃいけないと思っています。

山本 やはりそこで持ち出しにならないように、ちゃんと予算があるということですね。そこはとても大事な御指摘かと思っています。

あと例えば、現役世代を巻き込んでいかれる時に、ある種、世代別で何か防犯活動のアプローチの違いとかは、出てきていますか。もう少し下の世代の人たちは、同じ防犯活動でもまたちょっと違ったやり方をしたがるのか、何かそういうことはありますか。

発表者 これからそれが大事かもしれませんね。先ほどの中学生の話など、皆さんの発表を見て私はうらやましかったんです。そういうことで一緒になってやれる組織というか、活動体制というか、これから私どもは作っていかなきゃならない。新しいパトロールといいますか、新しい防犯のやり方といいますか、これもこれからまさに官民一体で考えていかなければいけないんじゃないかと思っています。

山本 今のは非常に重要な御指摘かと思っています。私もこの後ちょっとその点について、何かアイデアみたいなことが出せたらなと思います。重要な御指摘をいただいたと思います。